

(2) アンケート調査結果

一般市民アンケート調査において、日常生活で犯罪をした人と交流する機会がある人という人は0.7%となっています。犯罪をした人と今後交流したいと思うかどうかについて、「交流したいと思わない」という人が37.7%と最も多くなっていますが、「分からない」という人も36.3%と多くなっています。

図 66 (再掲) 日常生活で交流する機会のある人

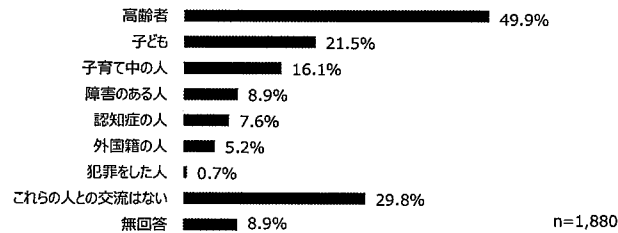
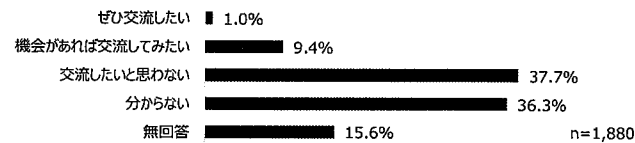
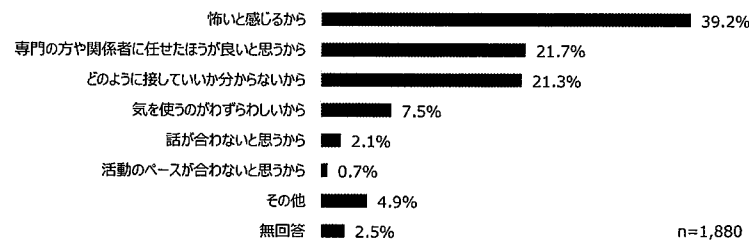


図 67 犯罪をした人との今後の交流の意向



犯罪をした人と「交流したいと思わない」という人について、その理由としては、「怖いと感じるから」が39.2%と最も多くなっています。そのほかの理由として、「専門の方や関係者に任せたいと思うから」「どのように接していいかわからないから」という回答も多くなっています。

図 68 犯罪をした人と交流したいと思わない理由



犯罪をした人が再び罪を犯さないために大切だと思うこととしては、「生活の基盤となる就労や住居の確保」が最も多く挙げられています。次に、「立ち直りを支援する専門機関や民間団体の連携」が多くなっています。

図 69 犯罪をした人が再び罪を犯さないために大切だと思うこと

